

令和版
吉岡町文化財マップ
ふるさとの歴史散策

指定文化財



ふなおたき
① 船尾像
船尾山（吾妻山）西北端にあり、落差約72mの名瀑である。干ばつ時には、龍神に雨乞いをしたと伝えられる。



みくにかいどう いちりづか
② 三国街道の一里塚
上野田の一里塚は起点の高崎から数えて四里である。榎の樹下には、江戸時代後期に建立された庚申塔が2基ある。



とうせいかん らんま
③ 桃井館の欄間
鎌倉時代初期に桃井八郎が居住したとされる桃井館の居間と客間の欄間である。精緻な透かし彫りの牡丹、葡萄と栗鼠の文様が配されている。（非公開）



けぞうじ せきざうべんさいてん
④ 華蔵寺第八世亮衍の墓
華蔵寺第八世亮衍の墓である。亮衍は、元文3（1738）年に華蔵寺に生まれた。稀代の蔵書家として知られ、実弟光旒（角田無幻）と京都・聖護院に出仕した。



けぞうじ せきざうべんさいてん
⑤ 華蔵寺の石造弁財天
修験の寺として知られた法雲山華蔵寺の山門左脇の池中に祀られている。『宝永5年』（1708）と刻書され、鬼面をもつ石祠の傑作である。



けぞうじししえんしよこぞうしよ
⑥ 華蔵寺獅子図書館蔵書
華蔵寺第八世亮衍（1738～1806年）が創設した書庫で、「聖教類（仏教関係書）」を含む、貴重な典籍や古文書など多くの資料を収蔵している。（非公開）



たきざわこふん
⑦ 滝沢古墳
関越自動車道建設に伴い発掘調査され、現在地に移築された。7世紀中頃の墳墓で、主 chamber は割石と削石で積まれた横穴式石室である。



しもはちまんぐう せきし
⑧ 下八幡宮の石祠
本殿の西北裏に祀られている。棟の鬼面は向って右が18cmで、県下では屈指の大きさである。銘は「寛永十式」（1635）年とあり、能面のような顔立ちである。



こんごうじ ほうきよういんどう
⑨ 金剛寺の宝篋印塔
金剛寺跡の畑中にあったが、現在不動堂境内に移されている。『浄眼大禪定門應永十三年』（1406）と刻まれている。桃井直常の供養塔と伝えられている。



おおおぶししまい
⑩ 大敷獅子舞
大敷の獅子舞は、大永3（1523）年桃井直常が守刀とともに、八幡神社に奉納したのが始まりといわれる。稲荷流佐々良獅子舞で一人立ち三頭連れの舞である。



ばばしげひさ はか
⑪① 馬場重久の墓（県指定史跡）
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した『蚕養育手鑑』は、県内初の養蚕手引書といわれる。



かいたしんじや せきき
⑫ 蚕神社の石碑
地図:F-4
くわいしんじやのから せきき
⑬ 稚産霊神の石碑



しもはちまんぐうししまい
⑫ 下八幡宮獅子舞
下八幡の獅子舞の起源は、慶長年間（1600年頃）よりも古いと考えられている。流派は関白竜天流である。舞は勇壮活発で、格調高いものである。



みなみしもこふんぐん
⑬ 南下古墳群
南下地区に分布している古墳群の総称である。6世紀後半から7世紀末の古墳群である。現在6基存在するが石室を確認できるのは5基である。



さんのみやじんじや
⑭ 三宮神社
大久保の鎮守として天平勝宝2（750）年の勧請と伝えられる。御神体の十一面観音像は、中世末期の一本彫り立像である。獅子舞や太々神楽が、春季祭礼で奉納される。



みぞまつりさんのみやじんじやししまい
⑮ 溝祭三宮神社獅子舞
天正年間からあったと伝えられる獅子舞で、頭が毛獅子で作られているのが特色である。稲荷流佐々良獅子舞で氏神三宮神社の祭典に奉納されてきた。



さんのみやじんじやだいだいぐら さんくろ
⑯ 三宮神社太々神楽 三楽講
三宮神社の春季祭礼で奉納されている。昭和22（1947）年に復活された、吉岡町唯一の神楽である。演目は国の成り立ちや、農耕と関わるものである。



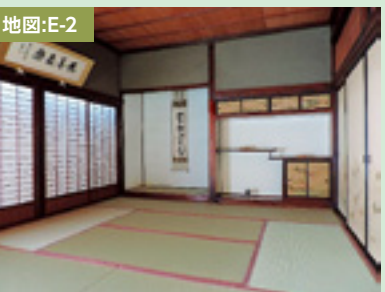
さどかいどう みち
⑰ 佐渡街道の道しるべ
佐渡奉行が往来したのでその名がある。伊香保街道との分岐点に建立された。『右条ちご志づ川』『左いかほ みづさ八』とされる。『寛政十二年』（1800）の年号が刻まれている。



みつや こふん
⑱ 三津屋古墳（県指定史跡）
八角形墳は7世紀中頃以後、主に天皇陵に採用された形式といわれ、全国でも10例程しか知られていない。本古墳は7世紀後半と考えられる。本来の姿に復元整備され、一般公開されている。



もりた け しゅおく しょいん ながやもん
⑲ 森田家 主屋・書院・長屋門
【主屋】森田家は伊香保街道沿いにあり、酒造業、問屋などを営み、名主・本陣を務める豪農。江戸時代中期の築造。三本溝の鴨居、大黒柱。本来の姿に復元整備され、一般公開されている。



（個人宅のため通常中には入れません）
【書院】江戸時代後期の築造。上段の間には違い棚の模様に狩野派の「狩野了承」銘が見られ、次の間には床の間の壁に「オトメナリ」という独自の模様を左官仕上げで施す。県内屈指の書院。



【長屋門】現在のものは、薬約100年大正時代後期に建てられた。桁行約27m、壁は白漆喰なまこ壁が美しく、正門の扉は樺造りの観音開きで威厳あるたたずまい。

